

## 六者会合（概要と評価）

（8月27日～29日、中国・北京釣魚台国賓館）

外務省作成

### 六者会合

#### 1. わが国の立場

- （1）核兵器開発問題について、北朝鮮は、全ての核兵器開発計画を完全に、不可逆的に、かつ検証可能な形ですみやかに廃棄する必要がある。
- （2）米国を含めて北朝鮮に対する敵視政策を有している訳ではない。北朝鮮の安全保障上の懸念への対応については、北朝鮮が核廃棄を然るべく行うことを前提に、六者会合のプロセスにおいて、議論を深めていくことは可能。
- （3）弾道ミサイル問題、生物・化学兵器につき言及。
- （4）北朝鮮が核廃棄に向け具体的措置をとるなら、北朝鮮に対するエネルギー支援について適切な時期に議論を深めていくことが可能。
- （5）日朝平壤宣言に基づき、諸懸案を解決し、北東アジア地域の平和と安定に資する形で正常化を行う、というわが国の基本方針に変更はない。

核及びミサイル問題更には拉致問題は日朝国交正常化の前に解決されなければならない。日朝国交正常化があってはじめて北朝鮮に対する経済協力を実施することとなる。拉致問題については、日朝間での具体的話し合いを通じて解決していく考えであるが、問題の包括的解決を図る上で、拉致問題の解決が不可欠。

#### 2. 各国の発言要旨

##### （1）米国

- （イ）北朝鮮の核問題は、平和的に解決されるべきであり、また平和的に解決することは可能である。米国は、北朝鮮に脅威を与えたり、侵略する意図もなく、また、北朝鮮の政権変更を求める意図もない。対話を通じて双方が関心を有する問題を解決し、徐々に外交関係を樹立していきたい。
- （ロ）北朝鮮が核計画を検証可能で、不可逆的な形で廃棄するということが確認されれば、次の会談で北朝鮮の安保上の懸念等の問題を討議する用意がある。

##### （2）北朝鮮

- （イ）北朝鮮は平和を渴望しており、全ての国家と友好関係を樹立することを望んでいる。非核化は、北朝鮮の最終目的であり、北朝鮮の目標は核保有ではない。米国が北朝鮮に対する敵視政策を変更し、北朝鮮に脅威を与えるのをやめれば、北朝鮮は、核開発計画を廃棄し、米と平和に共存することを希望している。
- （ロ）米国がわれわれを敵視しないという判断の基準は、米朝間に不可侵条約が締結され、米朝外交関係が樹立され、米国がわれわれと他国との経済取引を妨害しない時とみなす。われわれが要求する不可侵条約は「安全の保証」ではなく、

法的な拘束力のある互いに攻撃しないという不可侵条約を締結することである。

- (ハ) ケリー特使は、2002年10月、北朝鮮を訪れ、われわれが、ウラニウム濃縮計画を密かに推進していると中傷した。これに対し、われわれは、いかなる秘密計画もないことを明白にし、われわれは、濃縮ウラニウム以上のものも持つようになっていると述べた。我々には一心団結を始め強力な武器がある。
- (ホ) 北朝鮮は、以下の一括妥結図式と同時行動順序を明らかにする。米国は、米朝不可侵条約を締結し、米朝外交関係を樹立し、日朝、南北経済協力実現を保証し、軽水炉提供遅延による電力の損失を補填して軽水炉を完工する。北朝鮮は、その代わりに、核兵器を造らず、その査察を許容し、核施設を究極的に解体し、ミサイル試験発射を保留し、輸出を中止する。
- (二)(30日、於：北京空港)「今回の会談は、机上の空論に過ぎなかったし、むしろ、我々を武装解除させる場になった。このような百害無利の会談に、いかなる興味も期待も持つことが出来なくなった。」「核抑止力を引き続き強化していく以外に他の選択の余地がないことを確信させている。」

### (3) 韓国

- (イ) 核問題は、対話を通じ平和的に解決されるべき。
- (ロ) 人道的な見地で北朝鮮に対する経済的支援を継続していく。
- (ハ) 核問題は、包括的に解決されるべきである。

### (4) 中国

- (イ) 朝鮮半島の非核化、北朝鮮の安全保証に関する懸念の解決、対話を通じ北朝鮮の核問題を平和的に解決する。
- (ロ) 朝鮮半島非核化と北朝鮮側が提起した安保憂慮は、同時に解決されるべき。
- (ハ) 六ヶ国が共に会合に参加するのは、意見の相違を拡大し、かつ宣伝するためではなく、意見の相違が存在することを認めた上で、解決の方法を探り、問題解決の未来を開くためである。

### (5) ロシア

- (イ) 朝鮮半島で緊張激化を解消するための緊急対策が必要。
- (ロ) ロシアは、朝鮮半島の非核化と強固な平和を保証し、すべての地域諸国のための安全を維持し、互恵的な協力を発展させるうえで利害関係を有する。
- (ハ) 交渉によってのみ、朝鮮半島の非核ステータスを維持し、北朝鮮をはじめとするこの地域の諸国の利益が保証され得る。
- (二) 北朝鮮の核問題に関する交渉の継続を期待。

## 3. 王毅中国外交部副部長によるホスト国総括

ホストたる王毅次官は、本会議を総括するに当たり、以下の6点を参加国に一致点であるとして、口頭で読み上げ、各代表団は拍手でこれを受け入れた。

- ( 1 ) 六者会合の参加者は、対話を通じて核問題を平和的に解決し、朝鮮半島の平和と安定を維持し、恒久的な平和を切り開くことに同意した。
- ( 2 ) 六者会合の参加者は、朝鮮半島の非核化を目標とし、北朝鮮側の安全に対する合理的な関心を考慮して、問題を解決していく必要があることに同意した。
- ( 3 ) 六者会合の参加者は、段階を追い、同時的又は並行的に、公正かつ現実的な解決を求めていくことに同意した。
- ( 4 ) 六者会合の参加者は、平和的解決のプロセスの中で、状況を悪化させる行動をとらないことに同意した。
- ( 5 ) 六者会合の参加者は、ともに対話を通じ相互信頼を確立し、意見の相違を減じ、共通認識を拡大することに同意する。
- ( 6 ) 六者会合の参加者は、協議のプロセスを継続し、可能な限り早期に外交経路を通じ、次回会合の場所及び日時を決定することに同意した。

### 日朝間の接触

#### 1 . 8月28日の接触（午前及び午後、20分程度ずつ、団長間で接触）

- ( 1 ) 拉致問題及び核問題につき協議し、拉致問題については、日本側より拉致被害者御家族の帰国と真相究明を強く求めた。
- ( 2 ) 先方は、拉致被害者の日本帰国につき、日本が約束を破った等従来 of 主張を繰り返した。

#### 2 . 8月29日の接触（全体会合終了後に10分程度団長間で接触）

- ( 1 ) 北朝鮮の金団長より、日朝間には、日朝平壤宣言というしっかりした基礎がある、拉致問題を含めた日朝間の問題は、日朝平壤宣言に則って一つ一つ解決していきたい、日朝双方が互いに日朝平壤宣言を履行していくことが重要である、と発言。
- ( 2 ) 藪中団長より、以下のとおり発言。
  - (イ) 日本側としても、日朝平壤宣言を履行していく考えである。
  - (ロ) 拉致問題の解決、特に、拉致被害者御家族の帰国については、人道上の問題として、是非、早期の解決が図られるよう、北朝鮮側の前向きな対応を求めたい。
  - (ハ) 日朝間の問題を解決するため、引き続き話し合っていきたい（これに対し、先方より、そのようにしたい旨応答）。

### 評価

- 1 . 核開発問題、地域の平和と安定に重大な影響を及ぼす問題に利害を持つ六者が一堂に会し、真剣に議論できたことに大きな意義。
- 2 . わが国としても、核問題のみならず、拉致やミサイル問題の解決の重要性を北朝鮮側に明確に伝達。
- 3 . 真剣かつ率直な議論を重ねることにより、参加団間の立場の違いが改めて明確になったが、これは、相違を克服し問題を解決するため必要な過程。
- 4 . 六者会合のプロセスは非常に貴重であり、このプロセスの継続が北朝鮮の核開発

問題の平和的・外交的解決にとって不可欠。次回会合が早期に開催され、解決に向け更に進展することが必要。

5．可能な限り早期に日朝の話し合いの場を設けることが必要。